

# ゴミ拾いを始めた子供達

山口 拓郎

「子供達が川に帰ってきてほしい」そんな思いからスタートした会である。5月からの3ヶ月を振り返るとそれなりの進展があったように思える。その歩みを順を追ってレポートしてみたい。

## 5月度作戦—突然の取材にあわてる

5月3日、生憎朝から雨模様だった。仕度をしているところへ朝日新聞・町田支局の望月記者から電話があった。我々の清掃作業を取材したいとのこと。寝耳に水でびっくりした。取り敢えず場所を説明して開戸親水へ急ぐ。9時半集合、先ず定点観測を行う。そして水に入り、清掃作業にかかる。望月記者もバイクで駆けつけ取材を受ける。それから2時間あまり、開戸親水からコンビニ裏の親水場までの約1Km、手分けして清掃作業に専念する。当日の収穫：自転車十数台・鉄材・ビン・カン・傘等背丈程のうず高い山となった。作業が終わった頃雷鳴が轟き雨足が激しくなってきた。誰かが「真光寺池の龍が喜んで！」と叫ぶ。泥だらけの皆の顔が輝いていた。

## ゴミ拾いをする子供達

朝日新聞・多摩版に記事が掲載されたのは5月31日だった。やはり反響は大きかった。会への参加申請があつた。会への参加申請があつた。会員は19名となった。

6月初旬、鶴川二小の先生から電話を頂いた。「記事を見て子供達が真光寺川へ関心を示している。話を聞きたい」後日、会員の高木さんから次ぎの話を聞いた。或る日、鶴川二小の児童約20名が親水場周辺のゴミ回収作業を行った。回収したゴミは袋に入れ学校へ持ち帰った。「若い先生が引

率しており実に整然としていた」又、別の日、和光学園の児童がグループで訪れ水辺で遊んでいた。「とても賑やかで楽しそうだった」何か確かな手応えらしきものを感じた。

## 6月度作戦—「自浄能力の測定」と上流清掃作業の準備

真光寺川は上流へ行くにつれて一匹の龍が翼を拡げたように幾つかの支流に枝分かれし、処どころに湧水がある。河川管理の管轄も神明の調整池を挟んで上流は町田市下水道局、下流は「南東建」と呼ばれている。下流部分は5月作戦でまあまあきれいになった。だが上流の部分はまた手つかずのまま。5月下旬、大曾根さんと町田市下水道

局を訪問した。上流域の清掃作戦を話し回収したゴミの処置をお願いする。我々の作戦を評価し回収車の手配を約束して下さった。

6月3日、6月度作戦は川の「自浄能力の測定」と上流地域の清掃作戦の下見に当てることにする。

定点観測後上流へ移動、大曾根さんの案内で数ヶ所での「自浄能力の測定」を行う。近辺の湧水の有無と量・川底がコンクリートであるか、泥土であるか・岸の構造、植物の繁茂の状況等によって自浄能力にかなりの差があることを確かめる。河川に極力自然を残していくことの意味を示唆している。

飯守神社から観泉寺の周辺にかけてゴミが多く目につく。自転車・スクーターもほうり込んである。

回収したゴミの集積場所としては真光寺駐在所に隣接している「榎本園」の植木保存林が最適であろうと見当をつける。後日大曾根さんと榎本さん宅へお願いにあがる。場所が道路沿いにあるのでこれまでゴミの不法投棄に悩まされて来たと言う。中には夜隠に紛れてダンパーで産業廃棄物を捨てていく不届き者もあるそうだ。世相を反映しているのか嘆かわしいことだ。

我々の作戦には理解を示して下さい。ご主人は「容易に出来ることではないな」と何度も頷かれていた。何事も地元の理解と協力なしには進まない。

## 7月度作戦—子供達と観測作業そして上流地域の清掃作業

6月下旬、鶴川二小の小幡先生から我々の作戦に子供達を参加させてほしいと言うお話があつた。但し当日は11時から農園の除草作業が組まれていると言う。従って定点観測を一語に行うことにした。

7月15日、7月度作戦当日は朝から夏の抜けるような青空が広がっていた。水銀柱はグングン上がって行く。我々は9時に集合、事前打合せを行う。打合せ半ばに小幡先生に引率された元気一杯な子供達が隊伍を組んで現れる。

35名、予めお願いしておいたように5名編成、7班のチームに分かれてもらう。4班は鶴見川サイド、3班は真光寺川サイドを担当。気温・水温・目視観察・透視度・PH、CODの水質検査等手際良く作業が進められる。

アツと言う間の40分、子供達は晴々とした笑顔を残して帰って行つた。我々は第2ラウンドの清掃作業に取り

かかる。車で真光寺駐在所近辺の作業現場に移動した。可成りの期間清掃などされなかったのだから。瀬の部分にまとわりついているビニールの袋・ビン・カン・発泡スチロールの箱等々。何故かサッカーボールも数個。2時間余りの作業で山のような収穫(?)があつた。道路から目に付かないようにマットを被せて作業完了。反省会では冷たいビールが五臓六腑にしみわたった。

## 8月度作戦—王禅寺ふるさと公園を見る

8月度例会では出来たら鶴川二小の子供達と真光寺川の植物・鳥類・魚類・虫・爬虫類等の観察をしたかった。然し学校が夏休みに入って連絡が取れなくなった。水のある公園、王禅寺ふるさと公園の視察に切り換えた。

調整池の北方に広がる都市整備公団の宅地造成区域では現在暗渠に入っている真光寺の流れをもう一度地上に導いて「せせらぎの小道」を造る計画がある。我々には子供達が水と戯れることの出来るものにして欲しいと願っている。地元民・公団・行政の間に立って意欲的なのが榎本さんである。我々にも意見をだしてほしいとおっしゃっている。その主旨から折を見て会員で人工河川の見学を進めている。

8月12日、8月度作戦当日、開戸親水で定点観測をした後、公園へ向かった。「王禅寺ふるさと公園」は川崎市が市政60周年の記念事業として水と緑をテーマとして造つた広大な公園である。多摩丘陵の豊かな自然を生かして10haの規模を持つ。何より見事なのは多摩川をイメージした「流れ」である。全長160m・幅員3-6m・傾斜を利用して岩組みの瀬の間を水がトウトウと流れている。一見、自然の流れのようであるが下の池から水をポンプで汲み上げ130t/hの水を循環させているのだと言う。

子供ずれの人々が芝生に憩い、裸の子供達は嬉々と水と戯れている。「せせらぎの小道」のイメージがふくらみ口々に夢を語り合った。

見終えて公園のはずれにある王禅寺に足を伸ばす。新編武蔵風土記稿にも記されている真言宗の古刹である。境内には禅寺丸柿の原木の末裔が立っている。夏木立に喧しい蝉時雨を聞きながら寺を後にした。

おわり

2000年(平成12年)5月31日 水曜日 第13号

### 自然豊かな真光寺川を取り戻せ

## 熟年15人、清流復活に奮闘

### 子供の川遊び夢見て

#### ごみ拾いや透明度調査

「かつての清らかな川を取り戻そう」... 町田市北地区を流れる小さな川、真光寺川。熟年15人のグループが活動している。クリーン作戦を「オペレーション」と称して川に入り、取り戻したゴミを回収。川底に落ちたゴミも回収し、川底を綺麗にする。子供達も川遊びの夢を見て参加している。

グループは「真光寺川」を活動の中心として、川沿いの清掃や、水質調査などを行っています。また、子供達にも川遊びの楽しさを伝え、環境意識を育てています。

活動の中心となるのは、川沿いの清掃です。ゴミを回収し、川底を綺麗にします。また、水質調査も行っており、川の健康状態を確認しています。

子供達にも川遊びの楽しさを伝え、環境意識を育てています。子供達も川遊びの夢を見て参加しています。